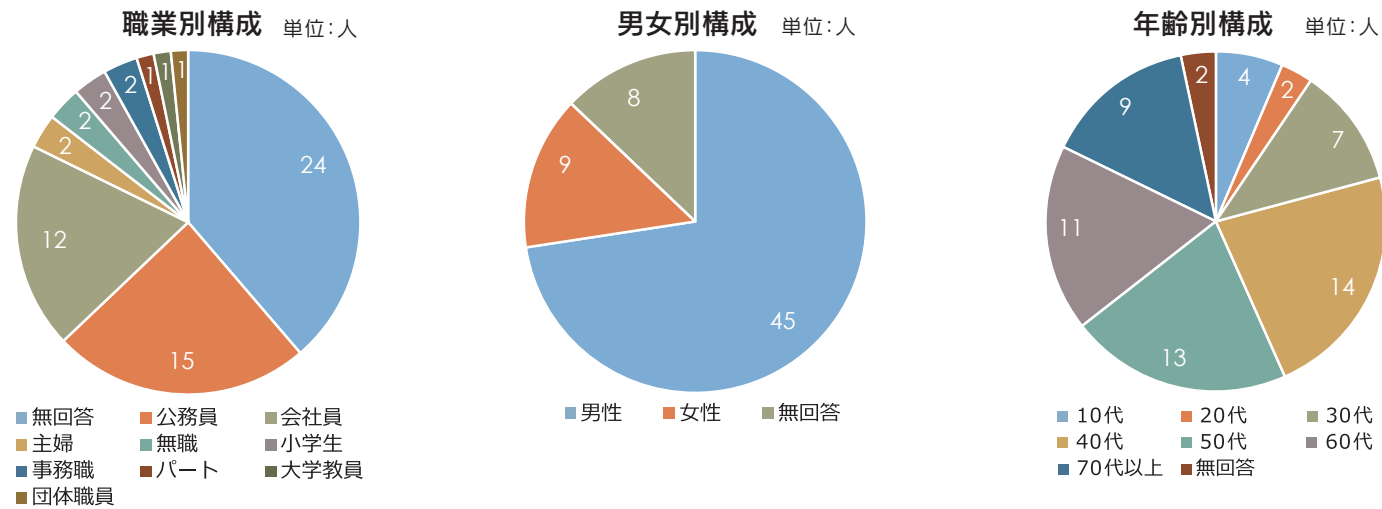


みんなで学ぼう水防災」アンケート結果【回答数62件】



本日実施した「水防災講座」へのご感想をお書きください。

- 普段考えていなかった事を考えると良い機会になりました。
- ハザードマップの見方、テレビのdボタンからの情報のとり方、ホームページでの検索方法など具体の「手引き」的な内容があった方がよい。
- もっとくわしく、長く話をききたかったです。
- 新聞やニュース以外の話が聞けてよかった。
- 30年前の水害がいかに甚大な災害だったのか確認できた。
- 各年齢層に分かりやすい内容であった。
- 水害が起きそうな状況(災害前)の対応と、災害が発生してしまった時の対応等についての説明があれば良かった。

本日実施した「防災ゲーム『クロスロード』体験」へのご感想をお書きください。

- 大いに参考になりました。次年度、町会活動の1つとして実施したい。是非資料をいただきたい。
- クロスロードのパンフレットがあれば(地区に帰って体験をしたい)防災に使用したい。
- 自分は4問とも「No」でしたが、自分と同じもしくは違う意見も大変貴重なので良い取り組みだと感じた。
- 平時に話し合っておくことが重要と感じた。良い取り組みだと思う。答えは1つではないという難しさを感じた。
- 非常に考えさせられる内容でよかった。小学校等で子どもと親向けに開催してもよいと思う。
- 日々家族との防災に対する意識を感じ、話し合っておく必要があることを感じる。
- 小学生からお年寄りまで、色々な立場の方と意見交換ができよかった。子どもにとっては良い経験となった。

本日のイベント内容に関して、改善すべき点や、他に取り上げて欲しいテーマなどありましたら

- 地域、職場、学校毎に取り組むきっかけづくりになると良いと思います。避難の場所、方法、タイミングについてテーマに!
- とても良かった。地区に帰ってもこの様な講座を開くことが大切です。「地区、防災組織の重要性」について
- 内容については、聞いているだけの講習会と違い、「ゲーム」を含めたイベントのほうが効果はあると思います。
- 小学生が参加できるイベントをさらに追加して下さい。
- 防災意識を高めるためにも、もっと広く周知して、イベントの回数を増やしてほしい。
- もう少し、市民の目線で役に立つ情報があった方が良かったと思います。

久慈川・那珂川についての出前講座等を承ります

皆さんのまちでも講座を聞いてみませんか?



常陸河川国道事務所の行っている事業や施設についてもっと知っていただきたくとも、皆様のご意見や「ナマ」の声を聞かせていただく場として「出前講座」を行っています。主に公共性・公益性のある団体、機関等からのご依頼に応じて、各種会議、各種団体の勉強会、町内会、子供会、学校の授業等へ担当職員が講師として出向き説明させていただきます。

学校の総合学習や、市民講座などの生涯学習にご活用ください。



詳しいお申し込み方法はコチラ <http://www.ktr.mlit.go.jp/hitachi/hitachi00085.html>

出前講座に関する問い合わせ先 国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所 計画課 TEL:029-240-4067

※道路に関する講座も承ります

みんなで学ぼう水防災

～久慈川・那珂川 昭和61年8月洪水から30年～ 水害に対し逃げ遅れゼロを目指すために

●主催/国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所 ●共催/茨城県、茨城新聞社
●協力/常陸太田市、久慈川・那珂川流域における減災対策協議会、茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)
■企画制作/茨城新聞社営業局

久慈川・那珂川流域に大きな被害をもたらした昭和61年8月洪水を振り返るとともに、水防災への意識向上を目的とした「みんなで学ぼう水防災～久慈川・那珂川 昭和61年8月洪水から30年～」が平成28年12月17日、常陸太田市稲木町の市総合福祉会館で開かれ、市民ら約100名が参加しました。水防災講座では、茨城大学人文学部教授 伊藤哲司氏、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所調査第一課長 和田紘希氏、茨城県土木部河川課課長補佐 矢作浩司氏の3名が、過去の水害や治水対策、防災などについて解説しました。防災ゲーム「クロスロード」体験では、伊藤教授のご指導のもと、問題を解きながら災害発生時の対応を考え、ディスカッションを行いました。また、会場ではパネル展や降雨体験車による豪雨体験なども催され、来場者でにぎわいました。

水防災講座

「第3のツール」で災害に備える 茨城大学人文学部教授 伊藤哲司氏



災害への備えとして、ハードとソフトという言い方が良くされます。当然、どちらも必要ですし、極めて重要です。それに加えてもう一つ、「第3のツール」があります。対話的で生成的なツール、これから行う「クロスロード」の実践もまさしくそのツールです。

いかに立派な堤防ができて、詳細なハザードマップができて、水害が完全に防げるとは限りません。私たち自身が、家族や隣人と協力し合っ、どう行動するのが極めて重要です。そのために、様々な災害を想定し、日頃から考えておく。私たち自身が構えを持っておくこと、それがハード・ソフトにプラスアルファとなる「第3のツール」です。

今日はこの第3のツールを自分たちの中で育てていくいい機会です。この取り組みをもっと広げていければと考えています。

大きな被害をもたらした昭和61年8月洪水 国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所調査第一課長 和田紘希氏



30年前の昭和61年8月洪水では、久慈川・那珂川流域全域で約160ミリから300ミリの総雨量を記録し、久慈川流域では755戸の床上床下浸水、那珂川流域で7679戸の床上床下浸水の被害が発生しました。

平成27年9月の関東・東北豪雨による鬼怒川の大規模水害を受け、県や流域自治体など関係機関で構成する久慈川・那珂川流域における減災対策協議会を平成28年6月3日に設立しました。この協議会では、久慈川・那珂川流域の大規模水害に備え、ハード対策として、洪水を河川内で安全に流す対策や決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう、堤防構造を工夫する対策の実施に加え、水防活動を支援するための水防資機材等の配備、簡易水位計及びCCTVカメラの整備等を実施するとともに、ソフト対策として、逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ確かな避難行動を目指して、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域を考慮したハザードマップの作成・周知等の取組や、避難時間の確保を目指して、より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化等の取組を、関係機関が連携して今後概ね5年間で実施することとしています。

雨水を貯めて氾濫を防ぐ 茨城県土木部河川課課長補佐 矢作浩司氏



川の氾濫を防ぐ方法で、代表的なものが堤防の整備です。水が流れる面積を広げるために、川幅を広げたり、川の底を掘るなどの方法もあります。氾濫を防ぐために、現場の状況に応じた方法で河川整備を行っています。

さらには、「降った雨を貯める・浸み込ませる」という方法もあります。県としてこれから力を入れて進める取り組みです。具体的には、宅地の庭に雨水を浸み込ませたり、学校の校庭や公園の下に雨水を貯めることで、川に流れるまでの時間を遅らせて、急激な増水を防ぎ、氾濫の危険を減らします。そのほかにも、市街地に池を作って貯める、調整池を活用する、森を守って保水効果を高めるなどの方法もあります。それから、田んぼを使って水を貯める・浸み込ませるという取り組みを行っている県もありますので、県として様々な貯める対策にも積極的に取り組みたいと考えています。

防災ゲーム『クロスロード』体験

防災ゲーム「クロスロード」とは



災害対応ゲーム教材「クロスロード」は、カードを用いたゲーム形式による防災教育教材です。阪神・淡路大震災の調査を元に京都大学防災研究所・矢守克也教授らが考案しました。ゲームの参加者は、示された事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていきます。災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、過去の事例が常に正解でないこともあります。ゲームを通じ、それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること、また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づくことを目的としています。



今回のイベントでは約60人がゲームに参加。伊藤教授と京都大学防災研究所巨大災害研究センター特定研究員の李勇晰さんを進行役に、6班に分かれてそれぞれの立場から様々な意見を交わしました。



一人一人が日頃から災害への意識をもつことが重要です。

パネル展

会場内のパネル展では、昭和61年8月洪水の被害を記録した写真や、水防災、河川整備等に関するパネルが展示されました。



洪水被害の写真などが展示されたパネル展



熱心にパネルを見る参加者

問題1 あなたは川ぞいに住む小学生です。

夏休み、家でひとりでお留守番をしています。大雨が続いていましたが、いまは降っていません。お母さんから「もうすぐ帰るから待っててね」と連絡がありましたが、大雨のせいで川の水が増えてきたようです。放送で「避難してください」と言っています。あなたはどうしますか？

Yes(すぐに避難する)と回答した人の意見

- 置き手紙をしてすぐに避難する。
- 放送で言っているからすぐに避難する。

No(母親の帰りを待つ)と回答した人の意見

- お母さんが待っててと言っていたので待つ。
- 小学生が一人で避難したら危ない。

問題2 あなたは足が不自由な川沿いの住民です。

軽微な水害ならば床下浸水が起こる恐れはあるが、自宅の2階に避難すれば助かりそうです。しかし、想定最大規模の水害の場合、家全体が浸かってしまうことになります。自分が避難するには、誰かの助けを借りなければなりません。いま、避難勧告がでました。あなたは2階へ逃げる？

Yes(2階へ逃げる)と回答した人の意見

- 2階へ行った方が早くて近い。
- 助けを借りるのは申し訳ないので、自力でなんとかする。

No(避難所に向かう)と回答した人の意見

- 避難勧告が出ているので、助けを借りてでも避難所へ向かう。
- 足が不自由なら、早めに逃げた方がいい。

問題3 あなたは地区の区長です。

上流に線下降雨帯が停滞し、これまでにない規模の水害が予想される状態です。市からも避難勧告が出されました。自分が住む地区の人々の家をまわって避難を呼びかけましたが、「ここは過去にも洪水が起こったことはない」と動いてくれない住民がいます。その住民を残して避難する？

Yes(残して避難する)と回答した人の意見

- 責任もあるが自分の命を最優先。
- お願いしても駄目なら仕方がない。

No(避難を説得し続ける)と回答した人の意見

- 区長としての責任があるので説得し続ける。
- 昔より大きな災害が起こり得る現在ではみんなで協力することが大事だから。

問題4 あなたはお米を作っている農家です。

市役所から「洪水のときに下流の住宅が水に浸かるのを防ぎたいので、上流にあるあなたの田んぼに降った雨を常に貯めるようにしてほしい」と協力依頼がありました。しかし水かさが増し、稲が長時間水に浸かると、収穫に影響が出てしまう場合もあります。あなたはこの取り組みに協力する？

Yes(協力する)と回答した人の意見

- 多くの人を救うためには協力したい。
- 人の命の方が大事だと思うので協力する。

No(協力しない)と回答した人の意見

- 田んぼの大きさにもよるが、一つの田んぼしか所有してなければ協力できない。
- 収穫に影響が出なければ協力したいが、そうでなければ協力しない。

降雨体験車

台風時の豪雨を5分程度体験できる降雨体験車も登場。来場者たちは激しい雨に驚いていました。



会場に設置された降雨体験車



台風時の豪雨を体験する参加者